

法人名 特定非営利活動法人 Special Discovery Supporters

事業計画書

事業名	子どもが安心して学べる地域ネットワークづくり事業 ～“地域が校庭”を合言葉にした地域づくり活動～
種類	(1) SDGs 推進事業 ( 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ ) (2) 自立促進事業 ( 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ )
1. 事業の目的	<p>NPO 法人 Special Discovery Supporters は 2022 年 6 月に設立しました。2021 年 9 月より任意活動団体としてフリースクール HIRO の活動を開始し、その後より社会に認知してもらいやすくする為、また、地域の活動の場となる為に NPO 法人として登記しました。本法人の目的は「<u>子どもが安心して学べる地域社会をつくる</u>」ことです。設立当初より HIRO の由来である「つながり」を最大限生かした学びの創造が出来る場所として活動を進めていきます。</p> <p>現時点での課題は、以下の 3 点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の中での居場所づくり／学び多様性の必要性</li> <li>② 不登校及び起立性調節障害の理解と対応についての研修の必要性</li> <li>③ 地域一体となって取り組む子ども支援の必要性</li> </ul> <p>近隣地域の不登校児童生徒の推移は小中学校ともに増加傾向であり、教育委員会を含む公教育機関との連携を取りつつ、地域の中で児童生徒が安心して学びが出来る環境づくりを整備しています。更に、フリースクール HIRO では、起立性調節障害を抱える生徒も通いやすい環境を整えるため、獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター等の医療機関とも連携を取りつつ、教育支援にあたっています。</p>
2. 事業の内容	<p>様々な理由により公教育制度の狭間で悩み不登校等、学校教育現場では学ぶことが難しい子どもを対象として、それらの子ども達の学びの場・学びの機会を提供することを目的に以下の事業を行います。</p> <p>(1) フリースクール運営事業 (居場所づくり事業／学習支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①趣旨：フリースクールの健全運営／長期運営の基盤づくり 学校以外での居場所づくり及び学習支援を実施 「つながり」を大切にした多様な学びの提供</li> </ul> <p>フリースクール HIRO は多様な生き方をする大人との出会い及び学びを大切にしています。生徒一人一人の学習進度に応じた勉学の対応に加え、希望を現実可能なものとする為、本人及び保護者との対話を大切に、希望の実現に向けてのプロセスをともに歩む「マイプロジェクト学習」を取り入れ、個別支援教育を行っています。また、今後も継続的に行っていきます。更に、フリースクール間連携として地域のフリースクール間での生徒間交流、サポーター相互派遣等を計画しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②実施場所及び方法：フリースクール HIRO フリースクール HIRO の教室 (約 65 m<sup>2</sup>) の空間を利用し、公教育カリキュラムに加え、生き方等の講座を開催する。講師は生徒一人一人の希望等</li> </ul>

をプロジェクトとして相談した上でどのような大人に入室してもらうか検討する。入室若しくはオンラインで対話による講義を実施。

③実施期間・日時：令和5年7月21日～令和6年2月28日 計画的に10回～15回ほど実施

④対象者の層：小学生～高校生までの利用生徒及び保護者

⑤1回あたりの実人数及び延べ人数：20名（延べ300名）

（2）不登校及び起立性調節障害等、生徒個々が抱える心身の状況に応じた対応に関する研修／講演事業

①趣旨：不登校及び起立性調節障害の理解と対応についての研修を実施

起立性調節障害の罹患人口は、軽症例を含めると、小学生の約5%、中学生の約10%。重症は約1%。不登校の約3～4割に併存すると明記されているものの、公教育現場では様々な理由等により対応が困難な状況にあります。不登校の事象及び起立性調節障害についての理解と基本的対応方法を学ぶ機会としての講演会／シンポジウムを実施し、罹患する生徒の状況に寄り添える環境を整備していきたいと思えます。講演／シンポジウムテーマは、「子どもの教育を考えるシンポジウム（仮題）」。

②実施場所及び方法：桶川市民ホール（響の森）＆オンライン

③実施期間・日時：2024年1月28日（日）予定

④対象者の層：学校教育関係者／地域の方々

⑤対象人数：100名～150名

### 3. 実施計画

#### ①実施までの準備

##### (1) 生徒及び保護者の方々へのアンケート実施

一人一人の生徒の希望及び実現可能な「生き方講座」を選定する。  
生徒から講師へアポイントメントを取ってもらう機会を創出するなど社会とのつながりを生徒自身が創出してける様にサポートを予定

##### (2) 講演会／シンポジウム実施に向けてスタッフの研修会を実施

運営の担当者を決め、滞りなく実施ができるよう、スケジュールに沿って準備を進める

#### ②スケジュール

時期	(1) フリースクール運営事業(居場所づくり事業／学習支援事業)	(2) 不登校及び起立性調節障害等、生徒個々が抱える心身の状況に応じた対応に関する研修／講演事業
7月	生き方講座 ① ②	講師日程調整
8月	生き方講座 ③ 保護者面談実施予定	講演会／シンポジウム決定
9月	生き方講座 ④ ⑤	後援名義依頼(埼玉県・上尾市・桶川市)
10月	生き方講座 ⑥ ⑦	フライヤー／チラシ作成
11月	生き方講座 ⑧ ⑨	HP、SNS、チラシ配布
12月	生き方講座 ⑩ ⑪	参加者整理／運営準備
1月	生き方講座 ⑫ ⑬ 保護者面談実施予定	2023年1月28日(日) 予定 講演会／シンポジウム実施
2月	生き方講座 ⑭ ⑮	講演会／シンポジウムの実施 評価

#### ③広報計画

(1) HP 及び SNS を活用し広報を行う他、チラシを作成し継続的に広報を行う。

(2) HP 及び SNS を活用し広報を行う他、チラシを作成する。

なお、講演会／シンポジウム実施にあたり、埼玉県教育委員会、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会に後援名義依頼を予定。より公共性の高い活動として上記スケジュールに沿って広報をしていく。

### 4. 実施体制

#### ①総括責任者

NPO 法人 Special Discovery Supporters 代表 中里哲也

#### ②連絡責任者

NPO 法人 Special Discovery Supporters 代表 中里哲也

NPO 法人 Special Discovery Supporters 副代表 菊地希美

#### ③現場責任者

NPO 法人 Special Discovery Supporters 副代表 菊地希美

NPO 法人 Special Discovery Supporters 理事 渡邊紗矢子

#### ④経理担当者

	<p>NPO 法人 Special Discovery Supporters 代表 中里哲也  税理士田中秀夫事務所 田中秀夫</p> <p>⑤広報担当者など</p> <p>NPO 法人 Special Discovery Supporters 代表 中里哲也</p>
<p>5. 事業の効果</p>	<p>事業を実施することで見込まれる効果は以下の点であると考えています。</p> <p>①「子どもにとっての学びの本質的な理解と、周囲の大人の接し方への変化」  ②「不登校の事象についての理解と支援策の拡充」  ③「子どもにとって地域が校庭と認識される」</p> <p>「フリースクール事業」の最大の特徴は、フリースクールに社会福祉専門職が常駐し地域の機関連携を積極的に実施している点、さらには、子ども一人一人の価値を大切にしている点及び個々の支援計画を作成し実施している点にあります。社会福祉専門職の視点としてミクロの支援からマクロの支援に至るまで一体として考察し実施している点も特徴的であると自負しています。</p> <p>1 月に予定されている「講演会／シンポジウム事業」の最大の特徴は、子どもの学びとは何か？を本質的に考える場として、事業実施地域で行うことに意義があると考えています。特に、不登校支援において力点を置き始めた時期だからこそその実施はより効果的であると思います。</p> <p>今回のいずれの事業も活動の継続や発展に寄与できるものであると考えられます。</p>
<p>6. 今後どのように事業を継続し発展させるか  ※自立促進事業のみ</p>	<p>事業継続に向けて、取り組む具体的な内容は以下の通りです。</p> <p>①フリースクール HIRO の事業継続運営の為に健全運営  フリースクール利用者からの利用料としての徴収を通して、支援の継続及び事業を継続</p> <p>②フリースクールへの助成金事業に向けたマクロ的取り組み  フリースクール事業継続に向けた近隣地域の様々な事業者及び行政機関との連携強化</p> <p>③研修機会の創出</p> <p>1) スタッフ育成・・・スタッフ・ボランティア育成の為に研修機会の創出  2) 地域住民に対する情報提供・・・様々な学びの機会をつくり、皆が楽しく学びを創出できる地域づくり</p>

◎応募の際に本予算書で計上しなかった経費項目は、事業実施時に支出が生じたとしても対象経費とはなりません。

法人名 特定非営利活動法人 Special Discovery Supporters

事業収支予算書

1 収入の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
助成希望額 (千円未満切り捨て)	500,000	
自己資金	103,916	法人会費収入 10,000 円×10 人
事業実施による収入等	2,100,000	事業(1) フリースクール利用収入 25,000 円×10 人×8 ヶ月 事業(2) 講演会/シンポジウム入場料 1,000 円×100 人
その他		
合 計	2,703,916	㊤

2 支出の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
会場費	10,000	事業(2) 講演会場使用料 10,000 円
通信運搬費		
旅費交通費	65,000	事業(1) 講師交通費 3,000 円×15 回 事業(2) 講師交通費 5,000 円×4 名
消耗品費	42,000	プリンター用紙 10,000 円 インク 20,000 円 事業(2) 800 円×15 名
備品費	99,660	事業(1) ICT 機器 2 台 (約 50000 円/台)
委託費	48,256	事業(2) ポスター他印刷費
謝金	110,000	事業(1) 外部講師謝金 10,000 円×6 名 事業(2) 外部講師謝金 50,000 円×1 名
人件費	2,329,000	事業(1) フリースクール運営事業 講師/アルバイトスタッフとして 1,200 円×5 時間(日)×12 日(月)×8 か月×4 名 事業(2) アルバイト 5,000 円×5 名
その他		
合 計 (事業費)	2,703,916	㊥

収入の部の合計 (㊤) = 支出の部の合計 (㊥)